

研究種目:基盤研究(A)

研究期間:2005年度 ~ 2008年度

課題番号:17202024

研究課題名(和文)高齢化社会と国際移住に関する文化人類学的研究:  
東南アジア・オセアニア地域を中心に研究課題名(英文) Anthropological Study on Transnational Migration in Aging Societies:  
Southeast Asian and Oceania in focus

研究代表者 宮崎 恒二 東京外国語大学・理事

研究者番号 40174156

## 研究成果の概要:

本研究は、高齢者および退職者の海外への移動の実態を探ると共に、人口移動を、日本を含む地域間および世代間の相互循環および交換という視点から考察する可能性を追求するものである。

文献資料調査ならびにマレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなどにおける、政府ならびに関連機関、長期滞在者ないし移住者である日本人、関連業者に対する面接・聴取調査の結果、5に示す学術成果を公開した。その大要は次の通りである。

老後の医療・介護に対する不安から、国際移住は定住よりも長期滞在へとシフトしつつある。他方、メディカル・ツーリズムの拡大を含め、滞在先での医療・介護の可能性も開け、日本で最期を迎えることに拘泥しない考え方も見られるようになっている。海外での長期滞在の選択は、経済的には費用対効果という観点から、より豊かな、あるいはより困難の少ない生活を求めた結果である。他方、壮年時の海外生活ならびに海外旅行経験者の増加は、海外在住をライフスタイルの選択肢の一つと考える傾向が生じていることを示している。海外での長期滞在については、滞在先の政府・業者、日本国内の旅行業者などにより広報されており、「ゆったりとした第二の人生」というイメージを多用している。長期滞在者は、不動産投資を目的とする場合もあるが、多くは日本での多忙な生活との対照を強調し、家族、とりわけ夫婦の間の関係の再構築に言及することが多い。長期滞在の対象国は、家族構成・生活形態等の相違により大きく異なり、フィリピン、タイは単身男性が、バリは単身の女性が、そしてその他の地域では夫婦単位であることが多い。一般に、一部の日本語教育のボランティア活動等を除き、受け入れ社会との接触は最小限にとどまる。本研究により、人と空間の関係が固定的でなくなっており、移動がライフサイクルの一部として組み込まれつつあり、かつ家族の再編を促す兆候が示された。

## 交付額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
平成17年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
平成18年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
平成19年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
平成20年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
総計	34,200,000	10,260,000	44,460,000

研究分野:人文学

科研費の分科・細目:文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード:高齢化社会、移住、長期滞在、国際化、労働、余暇、東南アジア、オセアニア

## 1. 研究開始当初の背景

欧米では早くから退職者／高齢者移住が行われており、それに関する研究も社会学的な立場から行われてきている。これに対し、中高齢者／退職者の海外移住が始まったばかりの日本では、この問題に関する研究も皆無である。日本からの人口移動に関わる研究として、経済的な必要性に迫られた「労働」主体の、かつての日本からブラジルなどへの移民とは異なり、現代における中高年の海外移住は、むしろ「消費」主体の新たな形態といえる。

また、欧米においては、国内ないし域内での移住が主体であることから、異文化適応という観点からの研究は稀であるが、日本からの海外移住の場合、この観点が最も重要な要素となるが、この点についても、本研究は先行研究のほとんど存在しない、先駆的研究と位置付けられる。

本研究計画の研究代表者、研究分担者は、いずれも移民・出稼ぎなど人口移動を文化的な側面から研究してきた実績を持つ。また、本研究の海外協力者である豊田は、チェンマイにおける日本から移住した高齢者の研究に着手している。本研究は、これらの実績を生かしながら、文化人類学の立場から、現地および当事者への調査を重視し、高齢者の移動という新たな事態に関する諸問題を調査・研究すると共に、人口移動に関する議論をさらに大きな土俵に移す視点の転換を目指すものと位置付けられる。

本研究は、上記のごとく新たな視点に基づく人口移動の研究の試みであると同時に、本研究は今後増加すると予測される中高年の海外移住が、高所得者と低所得者に二極分化しつつ、介護関連労働者の流入と相まって、総体としては中高年における生活のトランスナショナル化を予想外に早く促進するのではないか、という予測の下に実施した。高齢化の進む日本において、年金や介護等の費用に関する不安要素が多いことから、海外での老後を求める傾向も強くなりつつある。

本研究の結果は、国際移動が生活の一部に組み込まれていく状況において、発生する問題点を明らかにし、日本における中高年の今後の生活形態に関する施策と個人の選択に関して大きな貢献をもたらすものと期待される。

## 2. 研究の目的

本研究は、国際的な人口移動の新たな形態

である高齢者および退職者の移住に焦点を合わせ、これをライフサイクル中の空間移動として捉えることにより、人口移動を、日本を含む地域間および世代間の相互循環および交換と見る視点を形成しようとするものである。すなわち、これまで主として「労働力」の移動として捉えられてきた人口移動を、「労働力」を必要とする人々の移動、という、まったく新しい観点から捉え、空間移動を財と労働の交換という観点から再検討する試みである。

具体的には、日本の高齢者および退職者を主たる対象とし、高齢者の移住に関する政策、事業化に関する日本の現状と経緯の解明、欧米諸国における施策、実体の解明、高齢移住者の文化・社会的適応に関する問題点の解明、高齢者の移動を視野においた人口移動に関する研究の視点の再構築を行う。

## 3. 研究の方法

本研究計画においては、1)高齢者移住の文脈の整理、2)政策レベルでの対応状況、3)移住者個人の認識と生活戦略、4)斡旋業者の事業展開とイメージ戦略、5)受入社会への影響、6)人、財貨、サービスの空間移動、という6つのテーマを設定した。各テーマについて、必要に応じて、面接聴取を伴う国内外における現地調査と文献資料調査を併用しつつ、研究を実施した。東南アジア、オセアニア各国の状況に関する現地調査に際しては、現地社会に関する調査実績に応じて、担当を定め、移住者や受け入れ社会、受け入れ国の施策に関する調査を実施した。また、上記のテーマを各年度において、研究分担者／連携研究者が分担した。調査地域については、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オセアニアを主たる研究対象地域とし、具体的には、チェンマイ、ペナン、キャメロン・ハイランド、コタキナバル、セブ、ルソン、パリ、パラオなどにおける調査を実施した。また比較のため、オーストラリア、ニュージーランドにおける短期間の調査も実施した。

上記のテーマに関連し、研究成果の一部を一部公開するため、国立民族学博物館と共催で国際ワークショップ Transnational Migration in East Asia: A View from Japan (5月31日-6月1日)、ならびに日本文化人類学会における分科会 East Asia in Motion : A Comparative Perspective to Transnational Migration (6月2日-3日)を開催した。さらに、研究分担者をシンガポール、カナダ、香港等で開催された学

会等に派遣し、研究成果の一部を公開した。

このほか、海外研究協力者をも含めた国内での研究・連絡会を開催し、研究組織内での情報交換、調査の進捗状況に関する連絡協議を行う一方、新たな動きを含んだ分析の方向性を検討した。

#### 4. 研究成果

以下、本研究の成果について、上記のテーマに沿って要約する。

##### 「高齢者移住の文脈の整理」

文献、官公庁資料等を用い、日本における政策面で変遷やビジネスの動向に関する調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

1986年の通産省による退職者移住計画は、海外での不動産開発と密接に結びついていたが、高齢者の「輸出」と解釈され、移住対象国の協力を得にくかった。また、不動産バブルの崩壊の結果、開発は停滞した。海外における不動産取得が困難になる、あるいはリスクを伴うことから、高齢者の海外への移動は、移住から、長期滞在（「ロングステイ」）への推移した。この推移を支えたのは、不動産関連業ではなく、旅行業界であった。

海外に移動する高齢者／退職者にとって、移住は医療・介護に関する不安のために、定住よりも、一時的な滞在を指向した。また、バブルの崩壊により、退職後等の海外への移動の例は、富裕層のみならず、年金生活への不安を抱く中・低所得者層にも波及した。日本よりも生活費が低く、「豊かさ」を味わえるアジアへの志向性が強まった。

先行例の多い欧州においては、欧州北部から南部への移住が主流であり、スペインにおいては、ドイツ、イギリス、オランダ等からの退職者「村」が存在する。しかし、EUの実質化に伴い、域内での物価水準が平準化する傾向にあること、また、保健・医療等の制度面での諸問題が発生しており、退職者移住は新たな局面を迎えつつある。

##### 「政策レベルでの対応状況」

移住、長期滞在の対象地域として、かつてもっとも人気が高かったのはハワイである。しかし、米国は基本的に永住権を得るのが困難であり、かつ長期滞在の期間も限られ、政府レベルでの振興策が皆無であること、また物価の高さのゆえに、近年では、人気が低落傾向にある。

長期滞在ビザに優遇措置を導入したのは、オーストラリアである。一定額の投資ないし預金を条件とすることにより、長期滞在者と

「資本」の導入を図った。しかし、近年では最低必要額を引き上げるなど、招致の積極性が低下しつつある。

本研究開始時には、3-4位であったマレーシアが、現在もっとも人気の高い滞在先である。これは、政府レベルで、長期滞在ビザの優遇をはじめとして、積極的な招致活動を行っていることに起因している。ビザ取得に必要な最低預金額も、オーストラリアに比して、遙かに低く抑えられている。

インドネシアについては、バリを中心に日本人の滞在者が増加しているが、政府レベルでの目立った取り組みはなく、現地社会の制度運用に依拠している。これはフィリピンにおいても同様である。

タイに関しては、インドネシア、フィリピンとほぼ同じ状況であるが、首都を中心に、高度医療により観光客を招致する動きが始まっており、長期滞在を推進する要因となる可能性がある。

##### 「移住者個人の認識と生活戦略」

東南アジア、オセアニア各地において、日本人社会ならびに長期滞在者に関する現地調査を行った。

一般に滞在国により、長期滞在者の経済的な水準は大きく異なる。ハワイ、オーストラリア、ニュージーランドが高い極に、タイ、フィリピン、インドネシアが低い極に位置づけられる。マレーシアは、高い極にやや近い。

富裕層が滞在する前者の国々においては、不動産売買が活発であり、所有する不動産の賃貸ビジネスも成立している。他方、後者に関しては、少なくとも名目上は、不動産所有は難しい状況にある。

注目すべきは、滞在者の家族構成と性別である。富裕層の滞在者には、夫婦単位で滞在する傾向が見られるのに対し、フィリピン、タイにおいては、男性の単身での滞在、ないし現地女性との同居という例が多く見られる。これとは反対に、バリにおいては、現地男性との結婚生活を営む日本人女性が多いのが特徴である。

移住ないし長期滞在の動機としては、日本でのしがらみから逃れたい、ゆっくりとした時間を過ごしたい、夫婦の関係を取り戻したい、と様々であるが、いずれにしても、日本にいては営みにくい、もう一つの人生を歩もうという気持ちが強いと解釈できる。

長期滞在者のすべてではないが、海外での赴任・勤務経験を有するものも見られ、日本とは異なる生活のあり方を知った上での選択である例も少なくない。

他方、海外での不安要因は、治安もさることながら、とりわけ医療・介護に関わる。また、死後のことも不安材料であり多くの人々は、健康な内は海外で過ごしたとしても、最後には日本に帰国することを考えている。

しかし、現地における医療・介護には一定の需要があり、設備、技術、言語の問題がクリアされれば、状況が変化する可能性はある。

#### 「斡旋業者の事業展開とイメージ戦略」

日本国内における関連事業者団体の資料を入手、分析するとともに、長期滞在関連ビジネスの広報誌、広報テレビ番組等を分析の対象とした。また、講演会や長期滞在者のネットワークによる会合などにも参加し、情報を得た。

調査期間中、対象国の側でもっとも活発に広報活動を展開していたのはマレーシアである。また、マレーシアのキャメロン・ハイランドでは滞在者のネットワークが活発に活動している。さらに、印刷媒体やテレビ番組等で提示される海外での長期滞在のイメージは、常夏の日々、ゆったりとした夫婦の生活、ゴルフ三昧の日々、比較的安価な生活費、現地での日本人のサークル活動など、地域を問わず、ステレオタイプ化されたものである。

本研究では、関連ビジネスならびに関連情報メディア従事者を招いての研究会も実施し、一方で高齢化社会におけるライフスタイルの選択肢の一つとしてのイメージ提示を進めていること、他方では、高齢者のみならず、海外に「遺棄」される若者の実態など、多様性に富む長期滞在の実態についての情報を得た。

また、業者の主催する、現地への長期滞在案内ツアーにも分担者を派遣し、とりわけ現地での業者間の関係、日本人コミュニティの実態に関する調査を実施した。

#### 「受け入れ社会への影響」

海外に長期滞在する日本人にとって、現地における医療サービスは、滞在先を決定する大きな要因になる。医療・介護に関しては、一定の需要が見込まれれば、ビジネスをとして成立する。数ヶ月に及び滞在ではないものの、すでにシンガポールにおいては、外国人を対象としたメディカル・ツーリズムが成立しており、高度医療と快適な滞在を組み合わせる産業となっている。同様の動きはタイにおいても見られる。他方、マレーシアにおいては、介護に関しては、むしろ滞在者の間での相互扶助的な動きが始まっており、将来的には産業化する可能性もないではない。インドネシアにおいては、現地に医療・介護施設

を建設し、ビジネス化しようという構想もないではないが、制度、資本の問題から始動していない。インドネシアからは、日本への介護士候補の送り込みが始まったばかりであり、今後、日本社会において職を得られなかった介護士を活用する形で、現地に施設を建設することは考えられる。

フィリピン、タイ、そしてバリにおける、婚姻関係を伴う滞在者の場合を除き、一般に、長期滞在する日本人と現地社会の関係は、きわめて希薄であり、不動産業や医療産業に限られる。これとは対照的に、選択的ではあるが、日本人同士のつきあいは概ね見られる。

現地社会との関係が希薄であることから、現地社会における、長期滞在する日本人に関するイメージも明確でない。海外の研究協力者の協力を得て、バリにおける現地社会の反応を調査することができたが、概ね、悪印象を抱くことはないが、ノスタルジックな農村風景を求める日本人と、近代性の象徴としての日本人を想像してきたインドネシア人の間には、認識の相違がある。

他方、参考のために実施した、国内における「移住」の主たる対象地域である沖縄における調査では、比較的若い世代の多い移住者が、観光客相手のビジネスを起業するなどの動きも見られる一方、現地の行政が進める地域開発に自然保護の立場などから反対するなど、移住者は現地社会に深く関与するようになっている。

#### 「人、財貨、サービスの空間移動」

4年間の研究期間において、計画当初と比べ、相当な変化が生じた。まずもって最大の変化は、サブプライムローンの破綻に端を発する経済危機であり、これに伴い、経済活動の停滞と人の移動の鈍化が生じている。現時点では、日本から海外への長期滞在者の数は劇的には減少していないが、年金の有効活用を念頭においていた長期滞在は困難になりつつある。また、石油価格上昇に伴う航空運賃の高騰は、移動にブレーキをかける結果を生んだと予測される。

本計画では、人、財貨、サービスが国境を越えて移動する大きな流れの中に、高齢者の移住ないし長期滞在を位置づけようとした。長期的には、この流れは継続するものの、短期的には経済的・政治的条件による大小の変動を被るものと考えられる。

インドネシアからの介護士の導入も、研究期間中に開始された新たな動きである。

すでに触れたが、メディカル・ツーリズムの拡大や、長期滞在者向けの介護施設建設の

動きについても、新たな動きとしてとらえられる。とりわけ、ここ数年のうちに、最期を日本で迎えることに強いこだわりを示していた高齢者が、海外での末期を受け入れることをいとわなくなってきたことは、個人と生活の場との紐帯が固定的なものではなくなってきたことを示している。

### 今後の展望

本研究は、国際的な人口移動の新たな形態である高齢者および退職者の移住に焦点を合わせるにより、人口移動を「労働力の移動」から「労働力を必要とする人々の移動」という、まったく新しい観点から、移動を、ライフサイクル中に位置づけられる地域間の「財」と「人」の交換と見る視点を形成しようとするものである。

諸条件により、このような交換は変動を被るが、国境を越えて財、人、サービスが交換される、という図式自体は、今後も加速化するものと考えられる。日本社会への外国人の定住はもはや自明の事実として、様々な方策が講じられており、多文化教育も徐々に浸透しつつある。他方、個人の人生に着目すれば、ライフサイクルに、移動が組み込まれつつあるとみることができ。人の移動は地域間のみならず、個人の中でも、ライフサイクルを通じて生じているのであり、今後、若年層における海外への移動や、海外からの留学・労働などを含めて考察することにより、移動を、社会と個人、時間と空間という異なるレベル、ユニット間で生じる交換という観点から大きくとらえることが可能となるであろう。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

伊藤 眞, 「ボーダー・エコノミー—サバにおけるブギス移民の生活戦略—」, 『人文学報 (社会人類学)』, 査読あり, 408, 2009, pp.31-48.

伊藤 眞, 「インドネシアにおける工業団地開発と女子労働」, 『人文学報 (社会人類学分野)』, 首都大学東京都市教養学部, 査読なし, No. 393, 2008, pp.15-29.

奥島美夏, 「序説 インドネシア・ベトナム女性の海外進出と華人文化圏における位置づけ」『異文化コミュニケーション研究』, 査読

あり, 20, 2008, pp.21-42.

奥島美夏, 「台湾受け入れ再開後のインドネシア人介護労働者と送出国制度改革: 銀行債務制度とイメージ戦略から看護・介護教育へ」, 『異文化コミュニケーション研究』, 査読あり, 20, 2008, pp.111-189.

ISHIKAWA, Noboru. 2007, "Commodities at the Interstices: Transboundary Flows of Resources in Western Borneo", pp. 146-170, *Asia-Pacific Forum* No.36 (June 2007), refereed, Taipei: Center for Asia-Pacific Area Studies, Academia Sinica.

奥島美夏, 「インドネシア人労働者の来日背景—送り出し政策と斡旋企業がつくる『エスニシティ』」, 『アジア遊学』, 査読なし, 104 号, 2007, pp.56-67.

山下晋司, 「出ようかニッポン、行こうかニッポン—現代日本をめぐる国際移動」, 『アジア遊学』, 査読なし, 104 号, 2007, pp.4-11.

山下晋司, 「ロングステイ、あるいは暮らすように旅すること」, 『アジア遊学』, 査読なし, 104 号, 2007, pp.108-116.

山下晋司, David Haines and Maikto Minami, "Transnational Migration in East Asia: Japan in Comparative Focus", *International Migration Review*, 査読あり, 41 (4), 2007, pp. 963-967.

TOYOTA, Mika, "Editorial introduction: international marriage, rights and the state in East and Southeast Asia" *Citizenship Studies*, refereed, Vol. 12 no.1: 1-7, 2008.

TOYOTA, Mika, "Ageing and transnational householding: Japanese retirees in Southeast Asia", *International Development Planning Review*, refereed, Vol.28 no.4: 515-531, 2006.

TOYOTA, Mika, "Bringing the 'Left-behind' back into view in Asia: A framework for understanding the 'migration-left behind nexus'", special issue of *Population, Space and Place*, refereed, Vol.13 no.3:157-161, 2007.

TOYOTA, Mika, "Migration and the Well-being of the 'Left Behind' in Asia: Key themes and trends", *Asian Population Studies*. (co-editor with Liem Nguyen and Brenda S.A. Yeoh), refereed, Vol.2(1), 2006, pp.37-44.

TOYOTA, Mika, "Ageing and transnational

householding: Japanese retirees in Southeast Asia”, *International Development Planning Review*, refereed, Vol.28 no.4: 515-531, 2006.

TOYOTA, Mika, "Health concerns of "invisible" cross-border domestic maids in Thailand", *Asian Population Studies*, refereed, Vol.2(1), 2006, pp.19-36.

ITO, Makoto, "'Networks as a social resource: the Case of Bugis Migrants in Sumatra and Sabah, Malaysia", *Jinbun Gakuho*, 査読なし, (東京都立大学人文学部), 371, 2006, pp.35-45.

伊藤 眞, 「へそのある家—南スラウェシ、ブギス・マカッサルの家屋から—」, 『アジア遊学 特集アジアの家社会』, 査読なし, 74号, 2006, 61-70頁

伊藤 眞, 「大衆化するハジ巡礼—南スラウェシの事例を中心に—」, 『人文学報』(東京都立大学人文学部), 査読なし, 360, 2005, 67-96頁.

ITO, Makoto, "Peranakanization, Indonesianization, and cultural citizenship among the ethnic Chinese in an Indonesian town", 『人文学報』, 査読なし, (東京都立大学人文学部), 361, 2005, pp.35-46.

鏡味治也, 「共同体性の近代—バリ島の火葬儀礼の実施体制の変化から考える」, 『文化人類学』, 査読あり, 69巻4号, 2005, 540-555頁

KAGAMI, Haruya, "Regional Autonomy in Process: A Case Study in Bali 2001-2003", *Asian and African Studies*, 5(1), , refereed, 2005, pp. 46-71.

[学会発表] (計 15 件)

MIYAZAKI, Koji, "Linking Asia and African Studies in Asia and Beyond", AY2008 AP Conference: The Asia Pacific and the Emerging World System, 2008.12.14, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu

YAMASHITA, Shinji, "Making an Interactive Anthropology in Globalizing Asia: An Introduction", APU Annual Conference: The Asia Pacific and the Emerging World System, 2008.12.14, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu.

YAMASHITA, Shinji, "Tourists or Migrants: Living Here, There, and In-between", Chair/Organizer: David W Haines: Wind Over

Water: An Anthropology of Migration from East Asian Setting, 2008 Annual Conference of American Anthropological Association, 2008.11.21, San Francisco.

伊藤 眞, 「インドネシアにおける新華人の形成」, 日本国際文化学会, 2008.7.13, 文教大学.

奥島美夏, "Establishment of a new sultanate in Northeast Borneo and the Arab migrants", Tun Hussein Onn Malaysia大学人文学部招聘講演, 2008.3.12., ジョホール.

奥島美夏, "Murut-Dusun ancestors, Kayan guards, and Malay-Arab reigners: Ethno-historical study of the Tidung and the inter-ethnic relations inside and outside Sabah", 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所リエゾンオフィス開設記念ワークショップ *Cultural Diversity in Sabah*, 2008.3.6, コタキナバル.

遠藤 央, 「退職者、年金受給者(リタイアラー)の海外移住は、島嶼国家を救うか」, 日本オセアニア学会関西地区例会, 2007.12.9., 京都文教大学.

奥島美夏, 「台湾の外国人政策の転換——インドネシア人介護労働者と花嫁をめぐる現状」, 早稲田大学アジア太平洋研究センター「日本アジア関係史」研究部会, 2007.12.1, 早稲田大学 19 号館.

奥島美夏, "Structural problems and recent trends regarding the Technical Internship Program (Ginôkenshûseido) in Japan: The Case of the Indonesian trainees", 東京外国語大学・東京大学・Hull大学連携ワークショップ *Migration Policy and Human Security*, 2007.6.9, 東京大学.

清水 展, "Paradise in Dream or for Real?: Japanese Retirees Migrating to Southeast Asia, " Session of East Asia in Motion: A Comparative Perspective to Transnational Migration. , 日本文化人類学会第 41 回研究大会 , 2007.6.2, 名古屋大学.

MIYAZAKI, Koji, "Aging Society and Migration to Asia and Oceania", Transnational Migration in East Asia: A View from Japan, May 31 - June 1, 2007, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan,

YAMASHITA, Shinji, "'Long-stay': A New Trend in Japanese Outbound Tourism", 第 10 回

国際観光研究会隔年次大会, May 13 - 20, 2007, トルコ・フェティエ (開催機関: Muğla University).

MIYAZAKI, Koji, "Knowledge and Image across the Boundary: Javanese-Malay in Niche", *Paper presented to the 4th International symposium Journal of Anthropologi Indonesia*. (University of Indonesia) , 2005.7.14, 16p.

ITO, Makoto, "Network as a Social Resource: the case of the Bugis Migrants in South Sumatra and Sabah, Malaysia", *Paper presented to the 4th International symposium Journal of Anthropologi Indonesia*. (University of Indonesia) , 2005.7.14, 15p.

SHIMIZU, Hiromu, "Refiguring Identities in an Ifugao village: Sketches of Joint Projects from a Filipino Filmmaker, a Native Intellectual, and a Japanese Anthropologist under American Shadow(s)", *Paper presented at the ISPS Workshop on "The Philippines and Japan under US Shadow," held at the University of Tokyo*, November 12-14, 2005., 2005,

[図書] (計 29 件)

山下晋司, 講談社, 『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』, 2009, 214p.

Makoto ITO, Quezon City: New Day publishers, Goda, Toh (ed.) *Urbanization and the Formation of Ethnicity in Southeast Asia*, 2009, 288p.

山下晋司, 東京大学出版会, 高橋哲也・山影進編『人間の安全保障』(分担部分: 「越境する人々—公共人類学の構築に向けて」 pp.161-173), 2008, 279p.

YAMASHITA, Shinji, Routledge, Slvie Guichard-Anguis and Okpyo Moon (eds.) *Japanese Tourism and Travel Culture*, (wrote, "The Japanese Encounter with the South: Japanese Tourists in Palau", pp.172-192), 2008, 240p.

ISHIKAWA, Noboru, National University of Singapore Press, *Between Frontiers: Nation and Identity in a Southeast Asian Borderland*, 2008, 320p.

ISHIKAWA, Noboru, Kyoto: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, *Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia*, Kyoto Working Papers on Area Studies No.10 (JSPS Global COE Program Series 8 In Search of Sustainable Humanosphere in Asia

and Africa), 2008, 13p.

ISHIKAWA, Noboru, Selangor: Persatuan Sains Sosial Malaysia, (Zawai Ibrahim, ed.), *Representation, Identity and Multiculturalism in Sarawak*. (wrote "Cultural Geography of the Sarawak Malays: A View from the Margins of National Terrain", pp. 257-263), 2008, 311p.

ISHIKAWA, Noboru, Kyoto: Kyoto University (CIAS Discussion Paper No.4), Wil de Jong (ed.), *Transborder Environmental and Natural Resource Management*, (wrote "State-Making and Transnational Process: "Transboundary Flows of Resources in a Borderland of Western Borneo"), , pp.117-128., 2008, 223p.

石川登, 『境界の社会史 --- 国家が所有を宣言するとき』, 査読あり, 京都: 京都大学学術出版会, 2008, 360p.

YAMASHITA, Shinji, Osaka: National Museum of Ethnology, Yamashita, Shinji, Jerry Eades, David Haines and Makito Minami (eds.), *Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus*, (Senri Ethnological Reports 77), (Yamashita wrote: "Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus", ), 2008, 208p.

MIYAZAKI, Koji, Osaka: National Museum of Ethnology, Yamashita, Shinji, Jerry Eades, David Haines and Makito Minami (eds.), *Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus*, (Senri Ethnological Reports 77), (wrote "Aging Society and Migration to Asia and Oceania", pp.139-150), 2008, 208p.

TOYOTA, Mika, Osaka: National Museum of Ethnology, Yamashita, Shinji, Jerry Eades, David Haines and Makito Minami (eds.), *Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus*, (Senri Ethnological Reports 77), (wrote "Care for the Elderly: Family duty or Paid Service?" pp.163-172), 2008, 208p.

伊藤 眞, 首都大学東京大学院人文科学研究科, 伊藤 眞(編)『高齢化社会から熟年社会へ II —都市形成過程における高齢者の多様化とそのセイフティネットワークの構築—』(何彬との共著部分 「中国広東省における高齢者と帰国華僑—広州市・梅州・新興件での調査—」, pp.58-74.), 2008, 125p.

伊藤 眞, 明石書店, 椎野若菜(編)『やもめぐらし 寡婦の文化人類学』 (執筆部分:「結婚

の絆、夫婦の絆—家族の視点から」pp.314-331.), 2007, 339p.

山下晋司, 新曜社, 山下晋司 (編) 『観光文化学』 (単独編集), 2007, 190p.

山下晋司, 弘文堂, 山下晋司 (編) 『資源化する文化』 (単独編集、執筆部分: 「序: 資源化する文化」pp.13-24.), 2007, 336p.

山下晋司, 弘文堂, 内堀基光 (編) 『資源と人間』 (執筆部分: 「文化という資源」, pp.47-74.), 2007, 336p.

内堀基光, 弘文堂, 『資源と人間』 (単独編集、執筆部分: 「序—資源をめぐる問題群の構成」, pp.15-43.), 2007, 336p.

清水 展, NTT出版, 加藤剛 (編) 『国境を越えた村おこし: 日本と東南アジアをつなぐ』 (執筆部分: 「グローバル化時代に田舎が進める地域おこし—北部ルソン山村と丹波山南町をつなぐ草の根交流、植林、開発の取り組み—」pp.165-198.), 2007, 202p.

SHIMIZU, Hiromu, Quezon City: Kultura't Wika, Inc., Azurin, Arnold; Sylvano Mahiwo (eds.), *In Junctions between Filipino and Japanese: Transborder Insights & Reminiscences* (wrote "Imaging the Filipino Revolution 100 Years Ago: Japanese Dreams of Expanding the Territory to the Southeast, pp.49-67), 2007, 256p.

石川登, 東京: NTT出版, 杉島敬志・中村潔 (編), 『現代インドネシアの地方社会: ミクロロジーのアプローチ』, (執筆部分: 「マイクロ・トランスナショナルリズム: ボルネオ島西部国境の村落社会誌」 pp.212-232), 2006, 324p.

遠藤央, 明石書店, 印東道子 (編) 『環境と資源利用の人類学: 西太平洋の生活と文化』 (執筆部分: 「資源をめぐる視線—パラオの内と外」 217-233頁), 2006, 336p.

床呂郁哉, 世界思想社, 西井涼子・田辺繁治編 『社会空間の人類学』 (執筆部分: 「変容する空間 再浮上する場所—モダニティの空間と人類学」, 65-90頁), 2006, 464p.

TOYOTA, Mika, University of Minnesota Press, Prem Kumar Rajaram and Carl Grundy-Warr (eds.) *Borderscapes: Hidden Geographies and Insurrectionary Politics at Territory's Edge*, (wrote 'Ambivalent Categories: 'Hill tribes' and

'illegal migrants' in Thailand', pp.91-118.), 2006, 330p.

TOYOTA, Mika, CABI Publishing, Kevin Meethan, Alison Anderson and Steve Miles (eds.) *Tourism, Consumption and Representation: Narratives of Place and Self*, (wrote 'Consuming images: Japanese female tourists in Bali', pp.158-177.), 2006, 256p.

TOYOTA, Mika, Singapore: Marshall Cavendish, Shirlena Huang, Brenda S.A. Yeoh and Noor Abdul Rahman (eds.) *Asian Women as Transnational Domestic Workers* Singapore: (wrote 'Unauthorised Workers: State-less Housemaids from 'Burma' in Thailand', pp.188-304.), 2005, 300p.

ISHIKAWA, Noboru, Kyoto University Press, ISHIKAWA, Noboru, Abinales, P.N., and Tanabe, A. (eds.) *Dislocating Nation-States: Globalization in Asia and Africa.*, (wrote Introduction: Dislocating nation-states", with binales, P.N., and Tanabe, A, pp.1-14, "Producing a national boundary at the margin of the state: A case from Sarawak, East Malaysia, pp.194-211), 2005, 289p.

TOYOTA, Mika, Oxford University Press, Will Kymlicka and He Baobang (eds.) *Multiculturalism in Asia*, (wrote 'Subjects of the state without citizenship: the case of "hill tribes" in Thailand', pp.110-135.), 2005, 384p.

TOYOTA, Mika, Routledge-Curzon, Jatrana, S. M. Toyota and B.S.A. Yeoh (eds.), *Migration and Health in Asia*, (Population and Migration Series), 2005, 406p.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宮崎恒二 東京外国語大学・理事

### (2) 研究分担者

該当なし

### (3) 連携研究者

山下晋司 (60117728)

東京大学大学院・総合文化研究科・教授

石川登 (50273503)

京都大学・東南アジア研究所・准教授

伊藤 眞 (60183175)

首都大学東京・都市教養学部・教授

清水 展 (7012608)

京都大学・東南アジア研究所・教授